

第2回目黒区住宅政策審議会小委員会について（報告）

目黒区住宅マスタープランの改定に向けて

■基本理念について

- ・「安心して住み続ける暮らしをみんなの手で実現するまち」という案だが、「暮らし」や「まち」という表現が住宅政策として適切か。
- ・「みんなの手で」は区民が主体的に関わるという点ではいいが、区として何をやるかが伝わりにくい。

■基本目標 安全・安心で快適な住生活の実現について

- ・「災害に強い住まいづくり」では、施策をイメージさせるキーワードとして「耐震診断」、「耐震補強」、「耐震助成」等がある。建築物以外の部分や室内の安全性の向上も求められる。
- ・「既存住宅の質の向上と活用」は、空き家やリフォーム、バリアフリー改修、維持管理などがキーワードである。
- ・エリアマネジメントの考え方も必要ではないか。
- ・「環境と共生する住まいづくり」は、例えば断熱性能を上げることなのか？それだけではないのでは？
- ・環境共生については、現在個別に行っている耐震やバリアフリーなどの改修を新たに統合整理することによって、環境共生などを進める、ということは書ける。
- ・防犯については、「開口部を通り沿いに取ると防犯性を高める」などの住宅設計での配慮による防犯効果について、パンフレットに書いて配布することができないか。
- ・「環境と共生する住まいづくり」は施策目標として適切ではない。「快適な住生活」として新しい住まいづくりに環境共生や防犯なども加えて書いてはどうか。

■基本目標 住宅セーフティネットの確保について

- ・「区営住宅・民間住宅の活用」には、対象者である住宅確保要配慮者（子育て世帯を含む）を入れる。
- ・「安心して住み続けられるための居住支援」では家賃補助を拡充することを施策として入れる。また、「多様な世帯が安心して住み続けるための居住支援」とする。
- ・「住まいとくらしの支援の連携」は住宅課が福祉部署につなげることができるとよい。→前の表現である「住宅施策と福祉施策との連携強化」に戻す。
- ・ワンストップ窓口があるとよい。相談窓口の充実が必要である。
- ・住宅確保要配慮者への住まいの紹介はできているが、断られる場合もあり、入居手続きへの同行などの人的支援が求められている。

■基本目標 住まい手の主体性の向上について

- ・マンションの管理、建て替えについて入れたほうがいい。
- ・「住まい手の意識の醸成」は、「住まいの学習の普及」と「主体的な維持管理」の2つに分ける。
- ・「住まい手の主体性の向上」は、学習、維持管理に責任をもつ、個人で難しい場合はコミュニティで支援し合う、という3つにする。エリアマネジメントもここに入るのではないか。
- ・国際化についても言及が必要である。→「支え合い助け合う地域コミュニティづくり」に入れ、地域コミュニティに溶け込むための支援が必要なことを書く。

■答申の表現について

- ・体系図に主な施策の例を入れようとするとう総花的になってしまうのではないか。
- ・体系図は施策目標までにして、施策については文章で書いていく。全部文章でもいいと思う。
- ・施策目標の文章の中で施策をイメージさせるキーワードを入れて表現してはどうか。

第3回住宅政策審議会の議題について

- ・課題があつて、基本理念や基本目標、施策目標があるという答申のイメージがわかるような資料を用意する。
- ・施策目標については、説明の文章に施策をイメージさせるキーワードを入れた資料を作成して議論する。

その他

- ・区民意見募集については、他の方法が難しく、前回どおりとせざるを得ない。